JBPRESS Japan Business Press

CONFIDENTIAL

Media WeaverとOriginator Profile

日本ビジネスプレス 吉田晃

©株式会社日本ビジネスプレス

目次

TABLE OF CONTENTS

01 株式会社日本ビジネスプレスとは
/Media Weaverとは

02 簡単な自己紹介

03 きっかけ

04 はまったところ

「日本ビジネスプレス」とは

日本ビジネスプレス（にっぽんびじねすぷれす）は、出版社などで編集・広告・システム業務を経験してきたメンバーを中心に、２００８年創業しました。

「メディア・サイトの共存共栄」のために、サイト構築運用支援、収益化支援などのサービスをご提供しています。

「Media Weaver」とは

Saas型のCMSサービスです。

現在、約１００サイトのニュース配信に利用いただいております。

https://mediaweaver.jp/list/customers

（右記、許諾をいただいているメディアのみ掲載）

■ 簡単な自己紹介

日経BP社という出版社で約２０年間、日経パソコン、日経システム構築、日経インターネットソリューションなどの紙媒体や、PC Online、Itpro（現xTech）などのネット媒体で編集記者として活動。

CMSの改修等を自身で行う。

２０１７年、日本ビジネスプレスにジョイン。

以後、プロジェクトマネジャとして、媒体社様の担当窓口として各種改修、新サービス立ち上げ、エンジニアとして活動。

現在は、プロジェクトマネジャのサポート担当。

Orignator Profileに関わったきっかけ

以下、すでに時間が経過しており、うろ覚えな部分もある前提で、媒体社様とのBacklogでのやり取りを振り返りつつ。

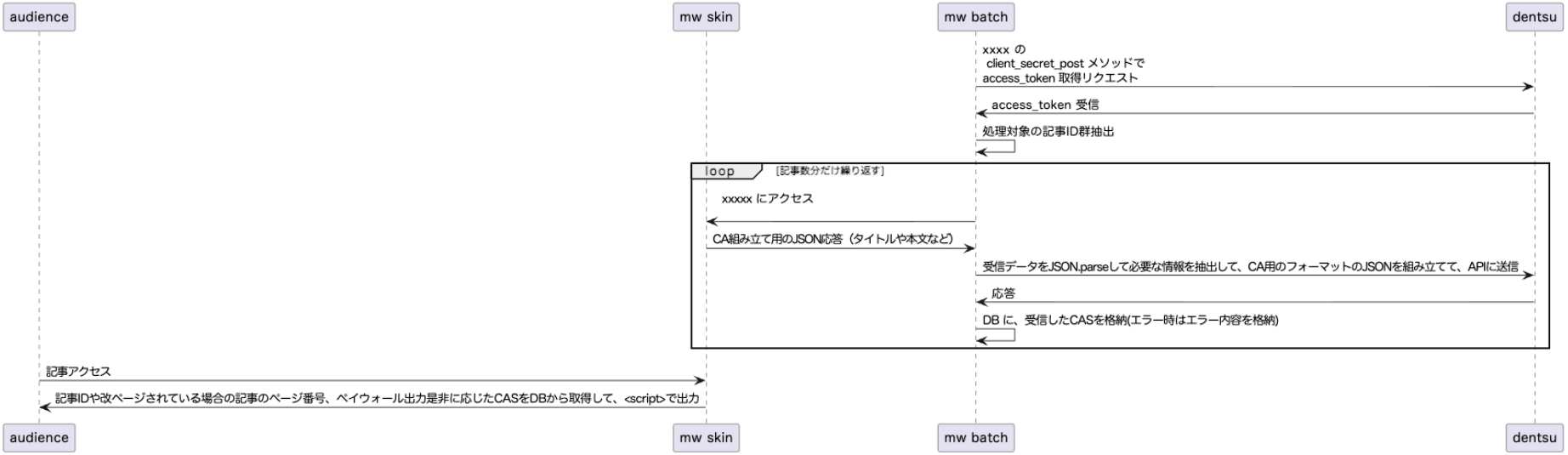
●２０２３年に、某媒体社様から開発のご相談を受ける。
WordPress用の実装例はあったものの、当社は独自開発CMSのため、仕様書を読みながら情報をまとめ始める。
（読売新聞様とサントリー様のサイトのデモ環境があったため、そこでJWTをデコードして確認したりなど）
当時当社として未対応だった楕円曲線暗号化がネックで止まっていたような記憶あり。

●２０２４年に入り、自然災害発生後にフェイク情報が出回ったこともあり、媒体社様から開発意向を受け、開発スピードを少し上げる。某媒体社様と時術研究組合様が提供されていたAPIを使ったテスト実装を試みる。

●２０２５年春ごろ、CA Serverを使って開発すると容易になるという情報を媒体社様からいただき、curlでAPIをテスト（APIは応答するが400/500エラーになるというところで止まっていた模様）。

●２０２５年秋頃、電通総研様のCA Serverを使った動作テスト。基本的な部分のど動作テストは終える。

フロー



access_token は client_secret_post で取得（２０２５年冬時点ではなかったため、当時はOauthでaccess_token取得）。
バッチで定期実行を現時点では予定。
通常の記事ページとは別のview側ロジックを作り、そこで記事のタイトルと本文を会員・非会員（ペイウォール有無）、端末（PCとスマホ）、記事のページ数分だけ組み立て、その情報法を元にJWTのpayloadを生成。APIで送信し、応答したJWT（CA）を記事IDと紐づけて格納。
記事ページリクエスト時に、そのJWT（CA）をペイウォオール有無や端末を判定して、必要なものを出力。

■ はまった点など

①２０２５年冬時点ではHtmlTargetIntegrity未対応だったため、そこで500エラーが出て、はまる。

②記事本文内にscripタグがあるとエラーになって、はまる。
仕様上はscript要素を送信しても問題ないが、WAFなどで除去される可能性があるとのこと。
このため、ペイウォールありの場合、本文が空になるため、APIに送信するpayloadからbody部分を除外し、タイトルだけ送信している。

③CAの有効期限が1年というところは、 CAの 発行後に、そのホスティングと自動再発行を担う「CA CDN」という仕組みを追加予定ということを伺っているため、過去記事のデータを永遠と送信しなければならない点は解消する模様。

④広告などを本文中にあとから挿入しているケースでvalidされない。
APIに本文やタイトルの情報を送信している際に指定した cssSelector は 本文を囲む要素のclass名 > p にしている。
挿入されていた広告は、a要素で、パラグラフの途中に要素が挿入されていた。
class名 > p と指定しているが、そのp内のTextが変わったことによる影響だと考える。
=> システム側だけでなく、社内で広告を担当している方などの理解や、広告配信事業者の理解も必要と考える。

開発に要する期間

電通総研様のCA Serverを使う前提であれば、開発に要する期間は、仕様確認、実装、テスト等を含めてフルコミットで開発したら、1ヶ月程度と見込みます。

加えて、負荷等を考慮したCMSでのCAの格納方式・方法や、payload生成方法（読者が見るページの組み立てに使っているプログラムとは別系統を利用）、取得方法の方針（記事公開時に取得するか、バッチ化するか）などで1〜1.5ヶ月ほど。

上記については、２０２３年〜電通総研様のCA Serverを利用するまでは、一部仕様変更等もあったりAPIを使っていなかったりなどもあり、厳密な期間はカウントしていません。